

キャラクター名  プレイヤー名

シンドローム	ノイマン		ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	ジャーナリスト&インフルエンサー
	ノイマン					
オプション			年齢	28	性別	男
覚醒	渴望	衝動	嫌悪	初期侵食率	32 %	
出自	天涯孤独	経験	元ヴィラン	邂逅	コミカライズ	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	0	1	0			1	行動値	6
感覚	0	0	0	1		1	(非装備時)	9
精神	6	0	0		1	7	戦闘移動	14
社会	2	0	0			2	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
エルマリアッチ		0		0		技能:射撃のイフェクトと組み合わせ可能

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
		12	-3	-3	

所持品		合計装甲:		合計回避:	
ヒーローズクロス		12	-3		
カテゴリ:ベテラン					
コネ:ヒーローマニア					
コネ:Vネットの影					
テーマパーク					
最大財産P:	6	残り財産:			

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
[RW06] 裏切りの正義P		N		
[RW01] 英雄の殿堂P		N		
DJ毒舌	P 友情	N 嫌気		
ダウンバースト	P 尽力	N 嫌気		
パラディン	P 憧憬	N 憐憫		
ダークナイト	P 憧憬	N 憐憫		
人間社会	P 庇護	N 不快感		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
言葉の刃	1	3	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果:	攻撃+Lv、装甲無視							
理知の城壁	1	1	メジャー	-	-	-	-	
効果:	〈交渉〉判定を【精神】で置換							
フェイタルヒット	5	4	オート	至近	自身	自動	100%	
効果:	ダメージ+LvD、1回/1R							
戦術	6	6	セットアップ	視界	シーン(選択)	自動	-	
効果:	対象のメジャーアクション+LvDX							
勝利の女神	7	4	オート	視界	単体	自動	100%	
効果:	判定直後達成値+Lv×3、1回/R							
常勝の天才	7	6	セット	視界	シーン(選択)	自動	ピュア	
効果:	ラウンド間攻撃力+Lv×4							
チェンジ	1	3	オート	至近	単体	自動	100%	
効果:	対象:単体を自身に変更							
インタラプト	1	8	オート	視界	単体	自動	ピュア	
効果:	C値+1、Lv回/シーン							
プリックリーク	1	10	イニシアチブ	視界	単体	自動	120%	
効果:	対象に再行動、1回/1S							
コンセントレイト	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	C値-Lv							
インスピレーション	1	2	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果:	GMIに質問							
詩聖の書	5	1						
効果:	〈交渉〉の攻撃力+7							
エルマリアッチ	2							
効果:	おもちゃ							

大衆を扇動し次なるムーヴメントを先導する野次馬。分類としては“メディアヒーロー”に当たるが、ヒーローとヴィランの戦闘に物見遊山と言わんばかりに現れ、インタビューという名目で両者に茶々をいれ、マスメディアに縛られないという口実であることないことを動画配信サービスで暴露するというのが彼のライフスタイルだ。オーヴァードとしての実力以上に世間からの目によって地位や報酬が左右されるヒーローにとっては戦闘にもプライベートにもちょっかいをかける彼は迷惑千万であろうが、常にエンターテインメントを欲している退屈なノーマルにとってはヒーローの話題に事欠かず“ショウアップヒーロー”などの演出されたコンテンツとは別の切り口からおもしろを提供する彼は下衆な人気が高い。活動自体はヒーロー登録前の黎明期から本名で行っているためファンからは“アラヤくん”と呼ばれることが多い一方で、ヒーローとして公的な活動をするために募集し、その皮肉に気づかず取得した“King Maker”というヒーロー名はアンチからの蔑称として使われることが多い。もともとはアラヤ本人についての固定ファンとのびのび活動を行ってきたが、エンターテインメントの白熱化によってわかファンが急増し、アラヤの名のもとに戦闘現場にまで乗り込んでくる通称“アラキッズ”の対応に手を焼いている。

たまたま才に恵まれただけの口八丁は英雄に仕立て上げたいヒーローの劣勢から覆し華々しいデビューを演出することからそのヒーローの過去の素行を拡散して世論による社会的弾圧を加えることにまで使われている。オーヴァードとしての実力はトップヒーローたちに遠く及ばないが、オーヴァードたちの勝敗や進退が自分の機嫌次第で物語が組み代わることがおもしろおかしくてしかたがないらしく、かっこいい決め台詞を発したヒーローの必殺技が不発に終わったり何年もかけたであろうヴィランの計画が頓挫した時には腹を抱えて笑う。しかしながら、心の底では稀に出会う“手のくわえる必要のない本当のエンターテインメント”を欲しているのである。

目を奪われた本物のヒーローが表舞台から去ろうとも、夢にまで見た継承者の座に馬の骨が降り立とうとも、彼はカメラを置くことはなかった。それこそ彼に課せられた罰であり、それこそが彼にできる唯一の償いだから。下手なギターの面倒を見られるほど平和になり腐った世界においても、今日も彼はエンタメを放映し続ける。

